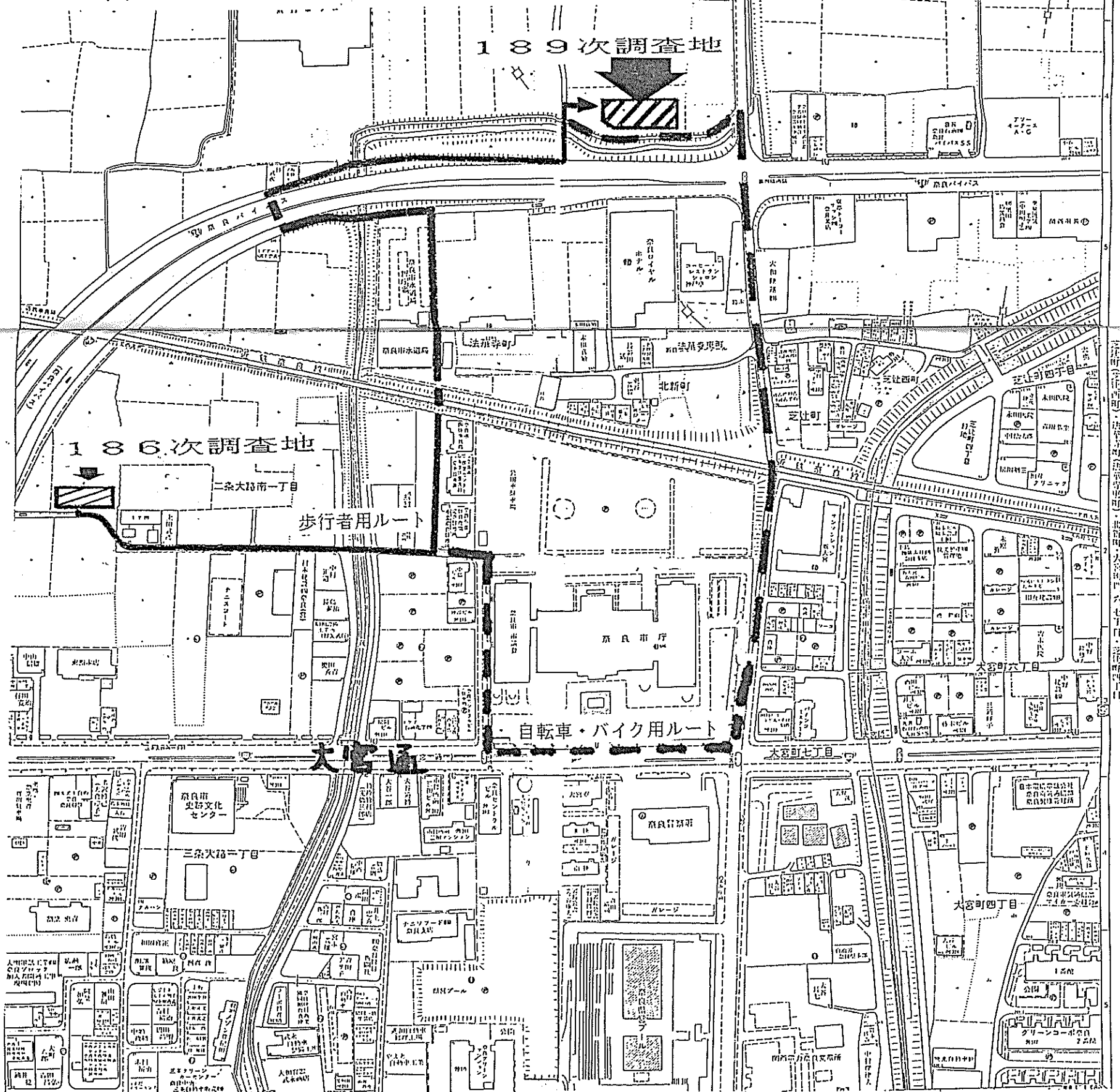


平城宮跡第189次発掘調査（平城京左京二条二坊一四坪）現地説明会資料19880305

奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部

本日皆様にご覧いただきます 第186次調査地の北東約500メートルのところで、第189次調査が行われています。調査は現在進行途中ですが、現地で簡単な説明会を行います。第186次調査現地説明会終了後、当調査部員が第189次調査地へ誘導致しますので、その指示に従って移動してください。自転車・バイクでおいでの方は、右の地図に従って（市役所→レストラン・シャロンを経由し、24号バイパスを北へ横断後、菰川の堤防ぞいに）現地へおいでください。なお、現地の駐輪、駐車スペースには限りがあり、又、路上駐車はできませんので、自動車での御来場は御遠慮ください。



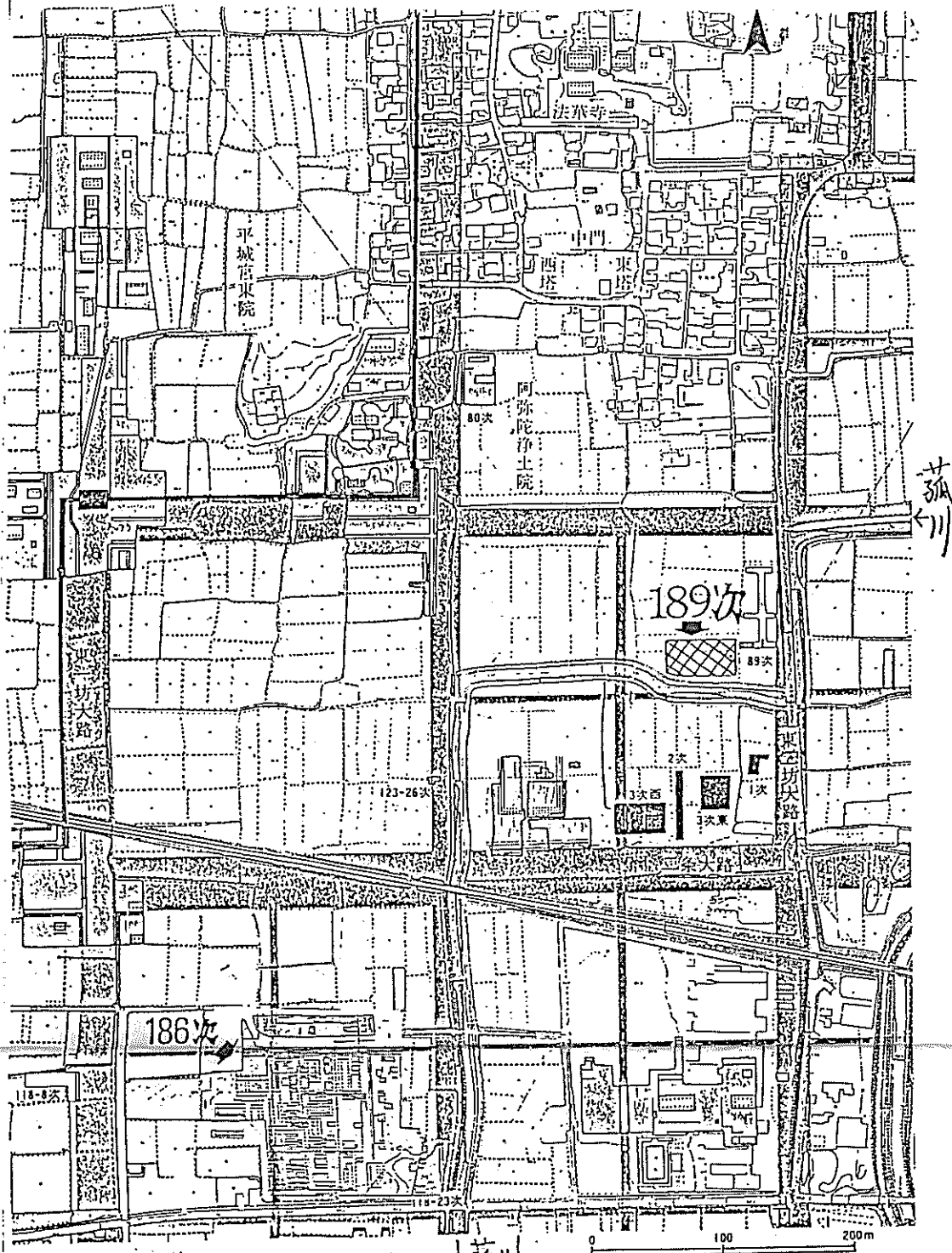


図2. 調査区周辺の地形・条坊及び道橋図

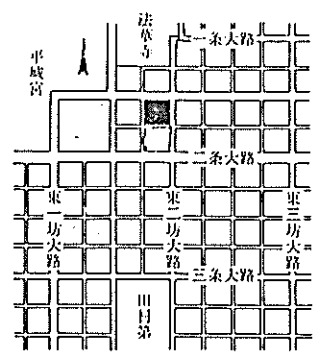
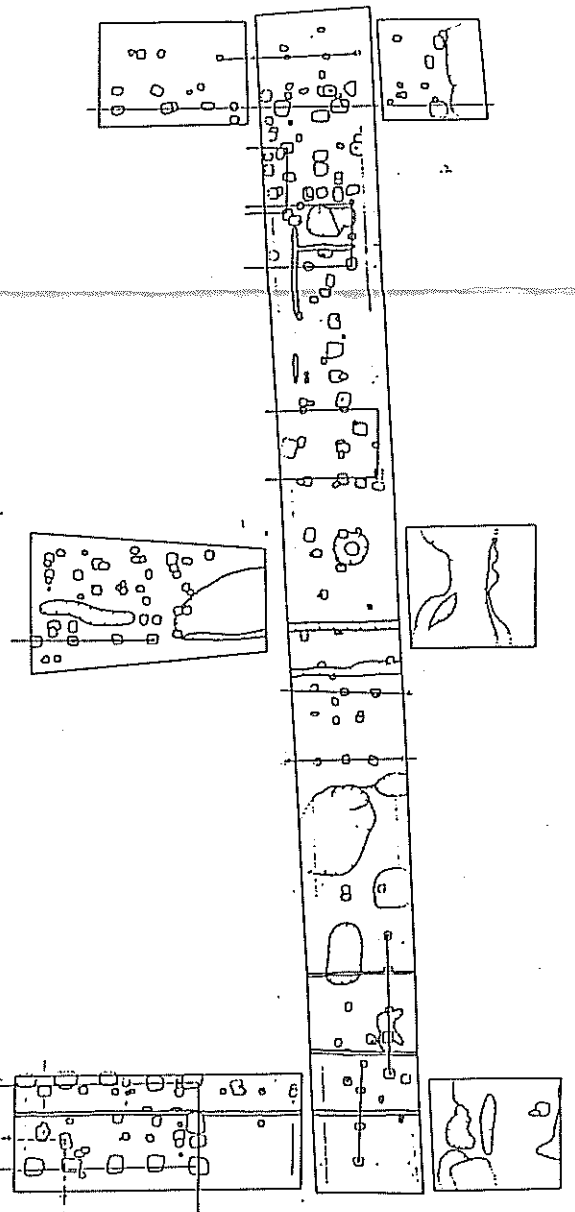


図1. 平城京左京二条二坊十四坪位置図 (189次調査区)



89次調査区

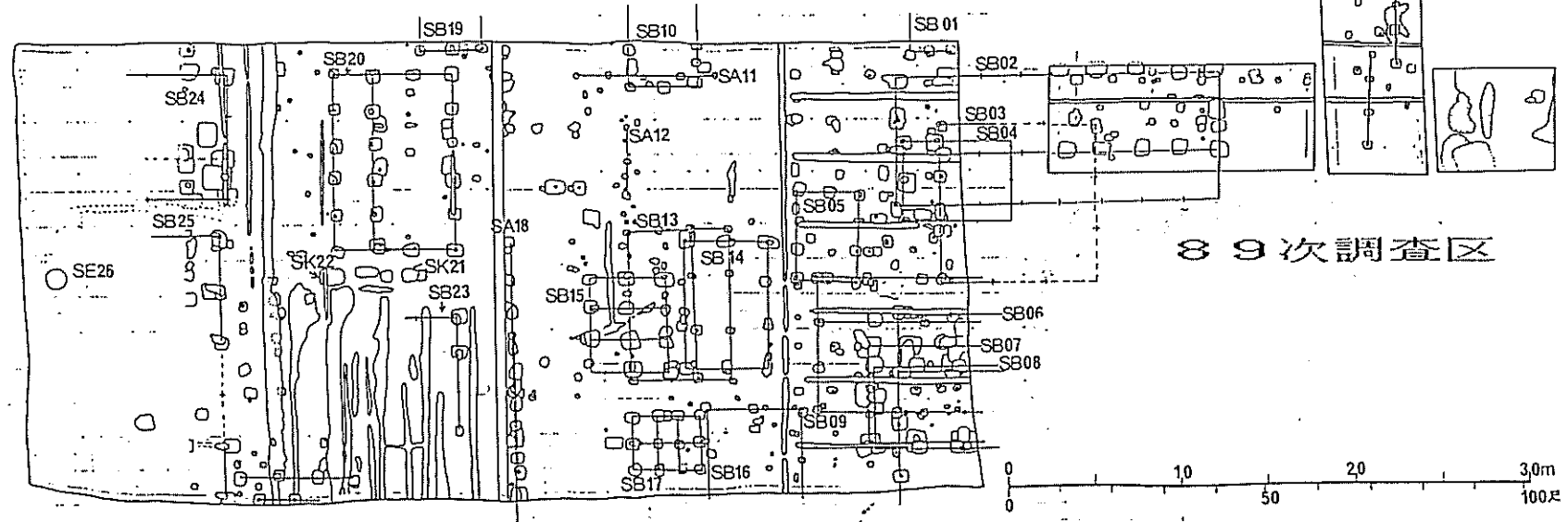


図3. 189次調査区 -2-

平城京左京二条二坊一四坪の南端に東鮮支店が建設されることになり、このうち1400㎡で本年2月1日以来発掘調査を進めている。本日報告するのは3月4日現在までの調査成果についてである。

左京二条二坊一四坪は平城宮から東へ約300m、法華寺(旧藤原不比等邸)から南へ約200mのところの位置し、東は東二坊大路、南は菰川に面している(1頁 図1、2)。一四坪の発掘調査は1974年の平城宮跡第89次調査以来二度目である。

現在まで発見された遺構は、建物跡(SB)22、堀跡(SA)3、井戸跡(SE)1である(2頁 図3)。遺構(井戸を除く)は出土した土器に寄ればほとんどが奈良時代のものと考えられ、遺構の重なりと配置などから、それらの変遷は今のところ6つの時期に区分できる(3頁 図)。調査区が坪の中心部ではないので、正殿風の建物はみられない。しかし、建物跡中、SB02、04、07、24の柱穴の一边が1m前後と大きく、しっかりとした建物であったと考えられる。堀跡SA18は一四坪の敷地を東西1/2に画する中心線上にある。また、調査区東部で北東から南西へ走る旧菰川と考えられる流路が発見された。これが平城京条坊計画以前のどの段階のものかは、数日中に判明しよう。

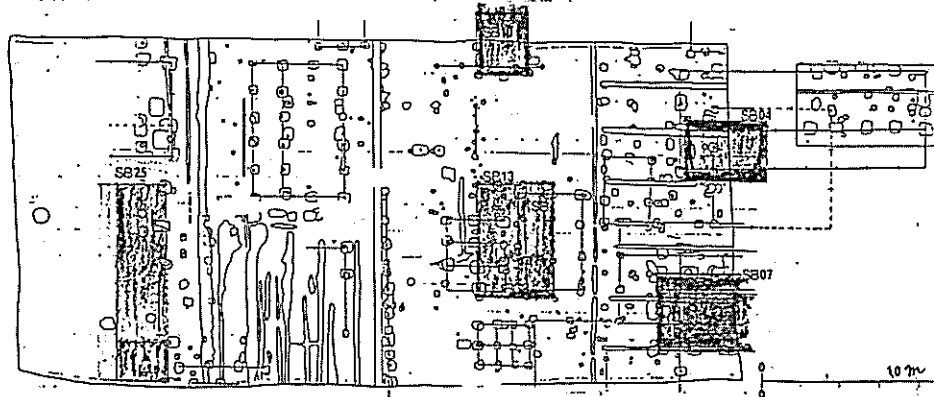
主要な遺物

*唐草文をもつ金鏡形の須恵器(身と蓋の破片)
:奈良時代初頭。従来、平城宮跡東院地区で発見されているだけの貴重なもの。

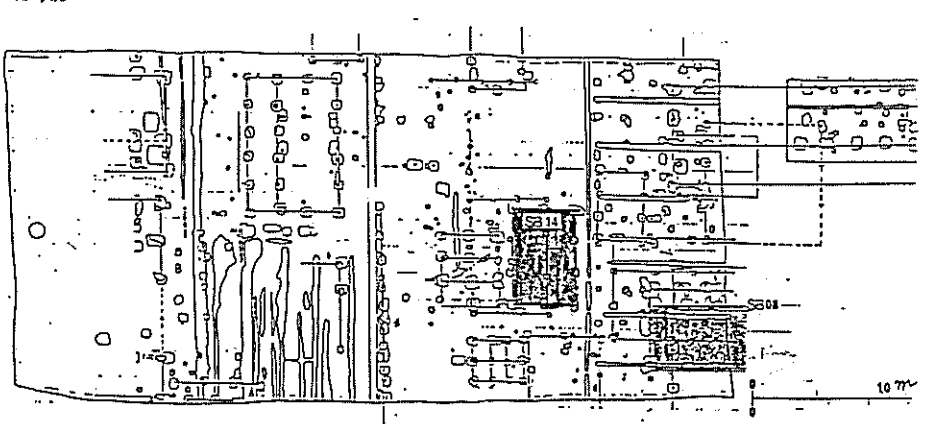
*施袖瓦:今回は10点余り。89次調査区南西部SB02付近から多く発見されている。左京二条二坊は施袖瓦が多い。
*鉄・銅、ルツボ、フイゴの羽口、木炭(SK21、22):
付近で金属製品を製作していた。

*ウリとモモの種子:SK22から出土。

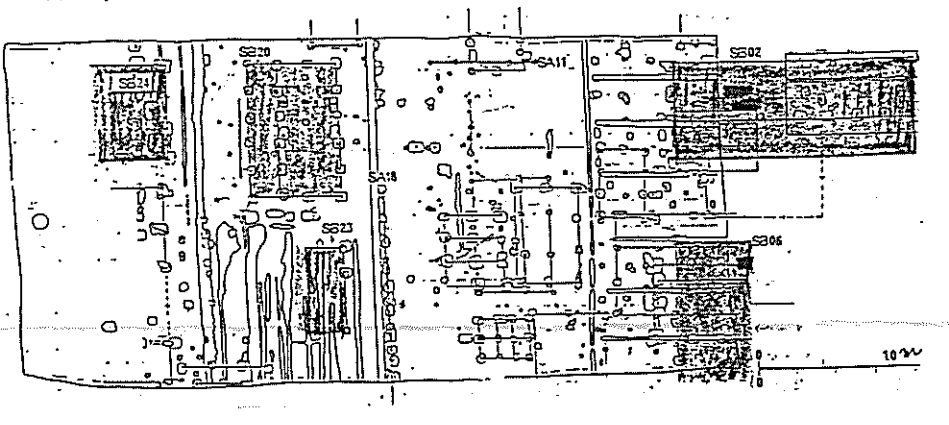
A期



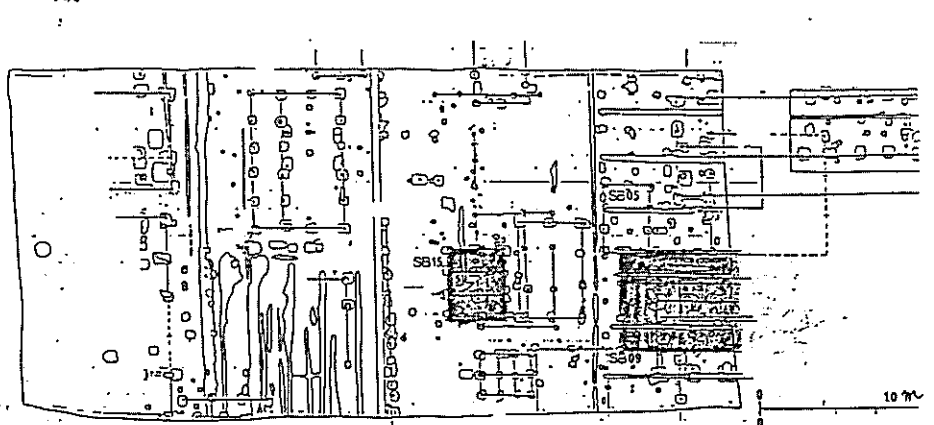
B期



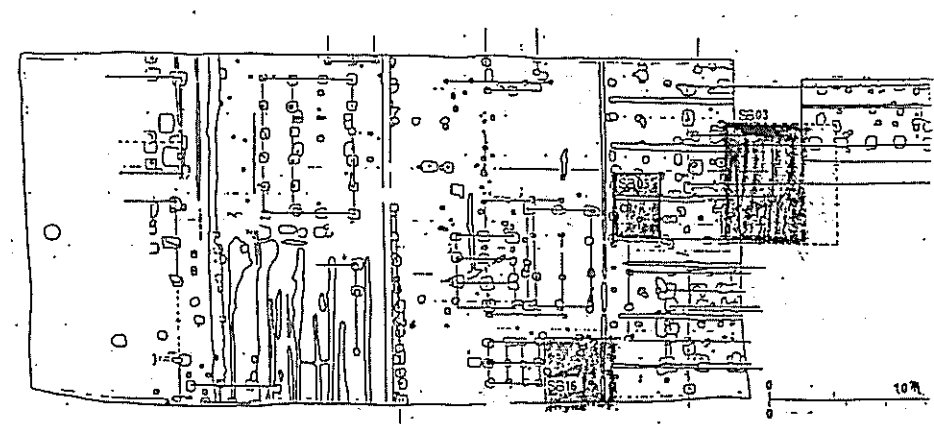
C期



D期



E期



×モ